



# 外来輸血

日本輸血・細胞治療学会 調査統計委員会

青森県立中央病院 臨床検査・輸血部

福島県立医科大学医学部 輸血・移植免疫学講座

北澤淳一



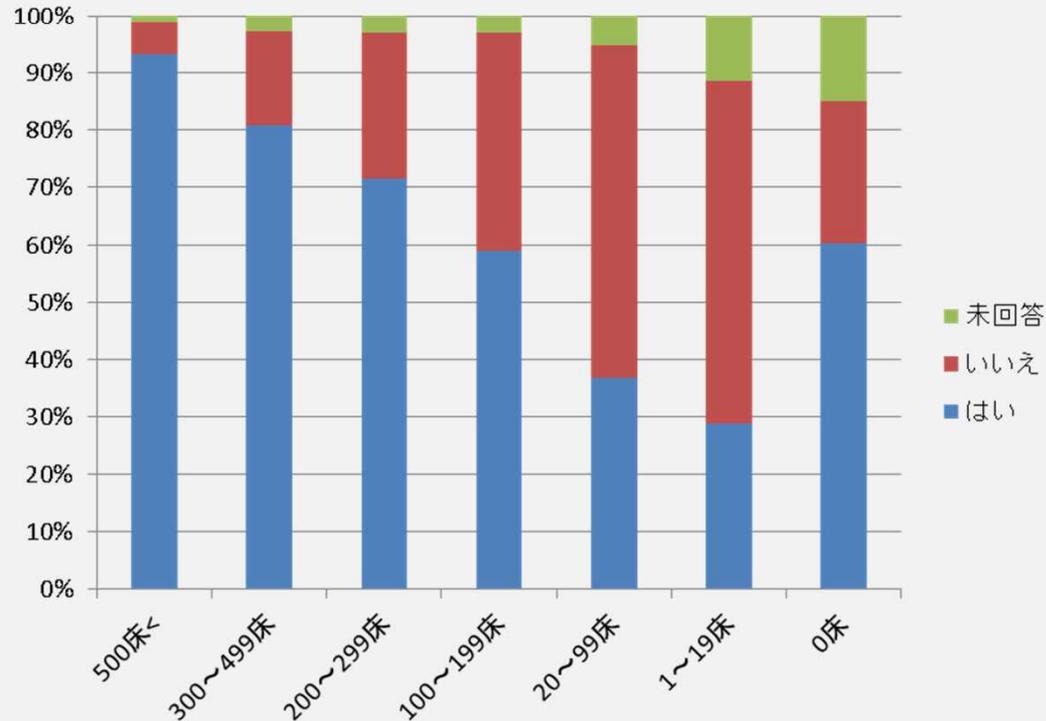
市民の健康をささぐ  
安全で高度な医療を提供し  
患者さん中心の心あたたかな病院を目指します



青森県立中央病院

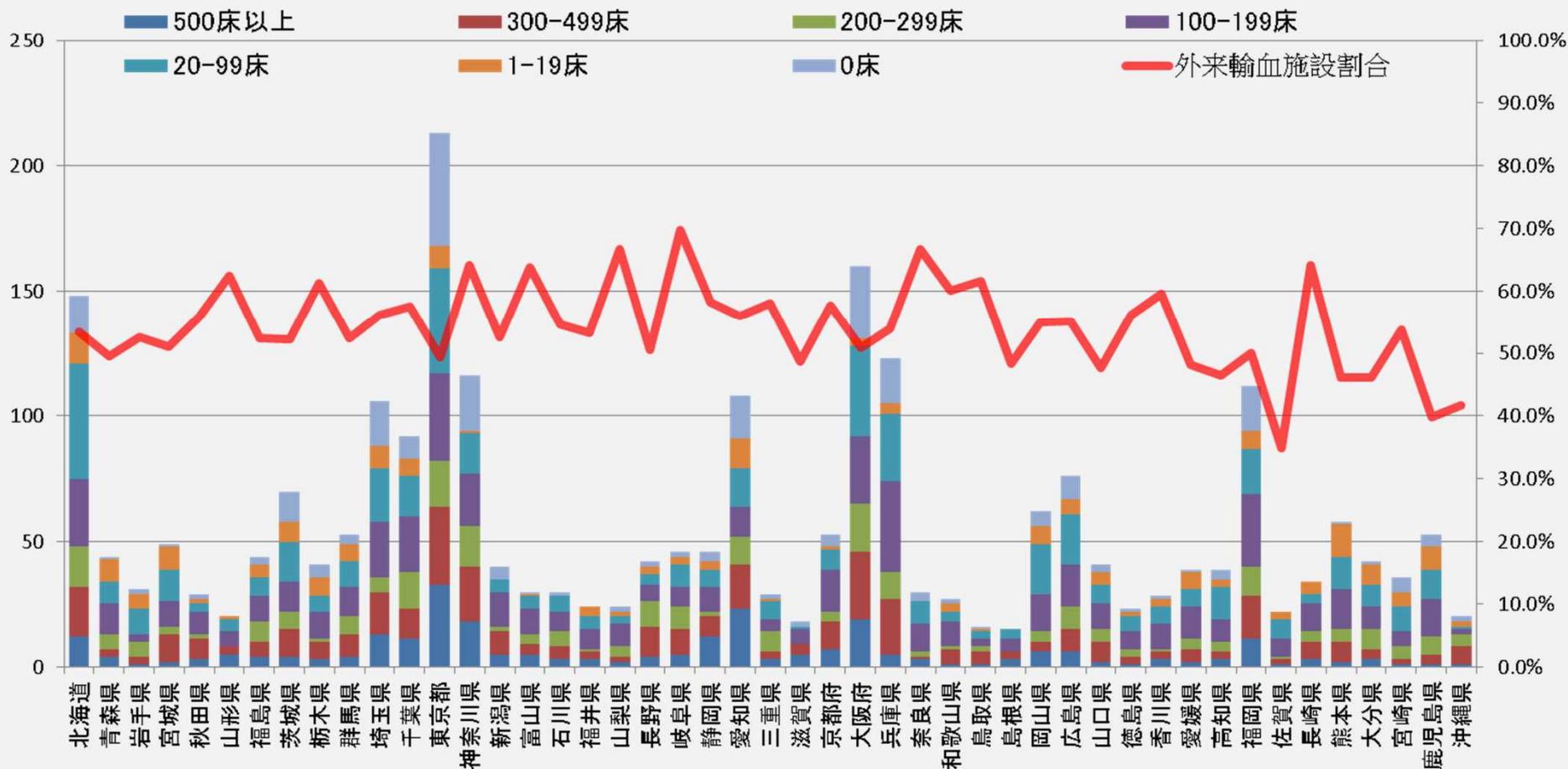
# Q149 年間 外来で輸血を行ったか？

- 外来輸血を実施したことがある(Q149)に「はい」と答えた施設を対象とする



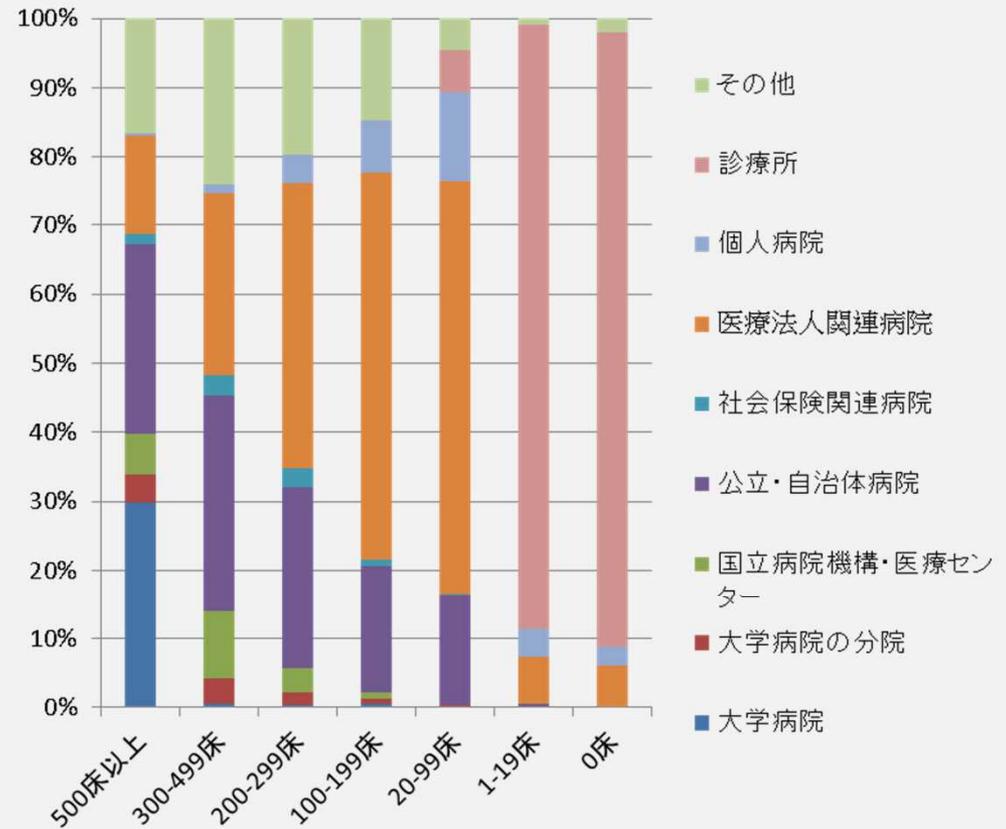
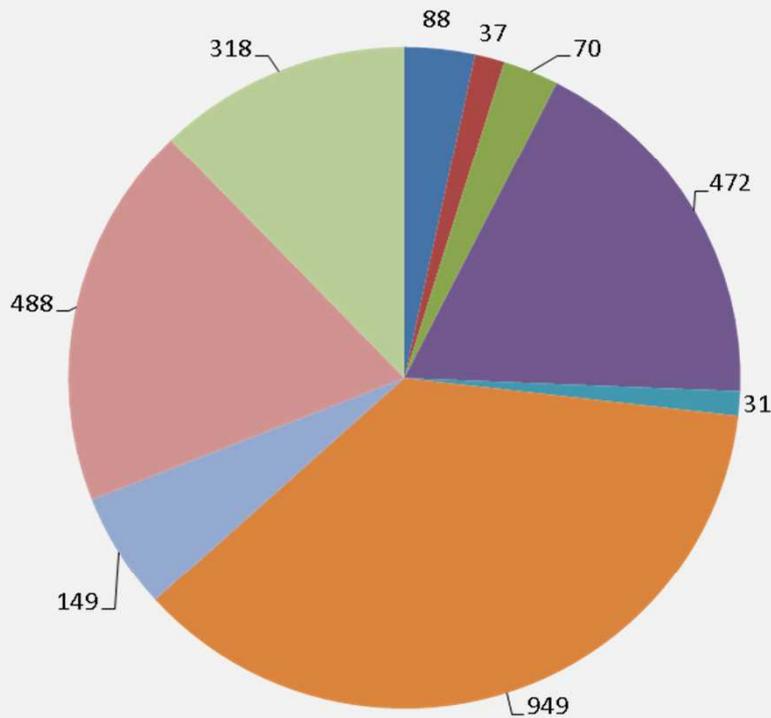
	500床<	300~499床	200~299床	100~199床	20~99床	1~19床	0床
施設数	292	498	397	1007	1451	762	489

# 外来輸血実施医療施設の全国分布、 回答施設における外来輸血実施施設割合



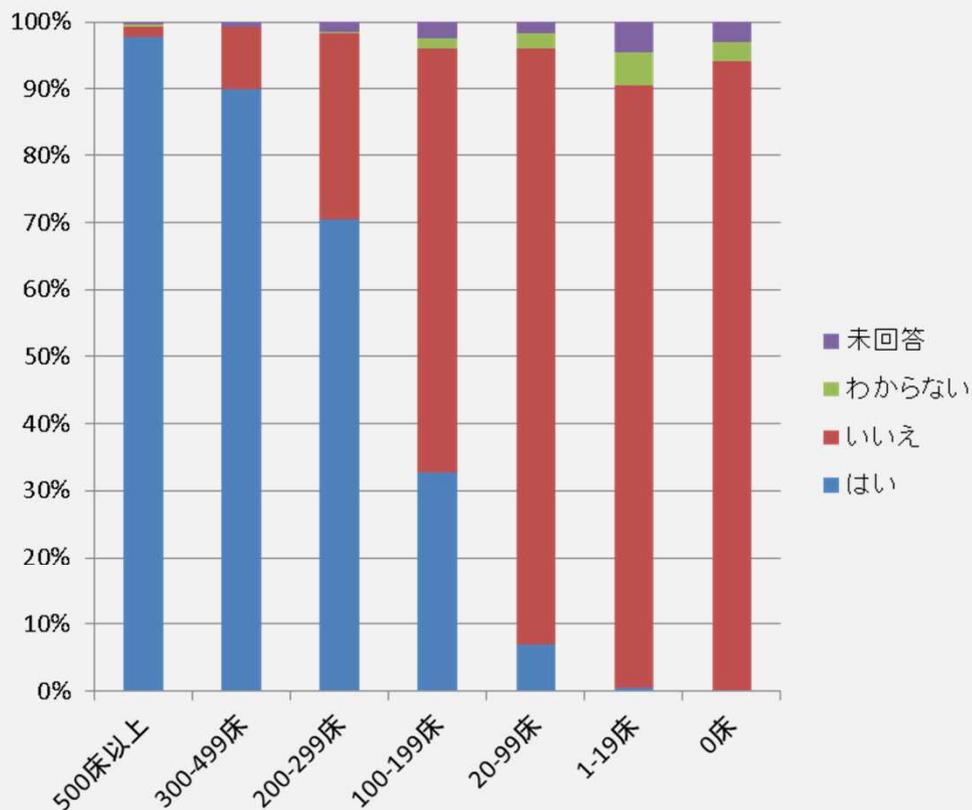
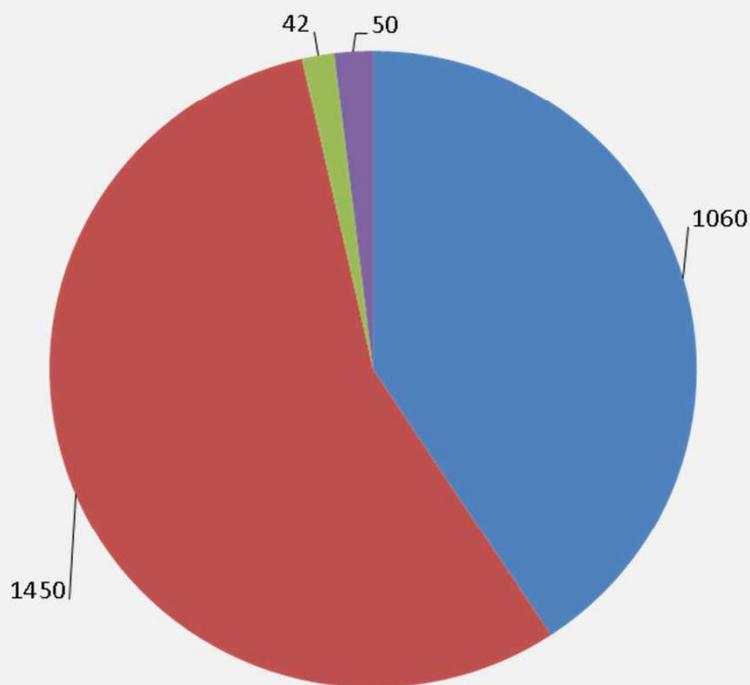
	500床以上	300-499床	200-299床	100-199床	20-99床	1-19床	0床
施設数	272	402	284	594	535	220	295

# 外来輸血を実施している病院形態



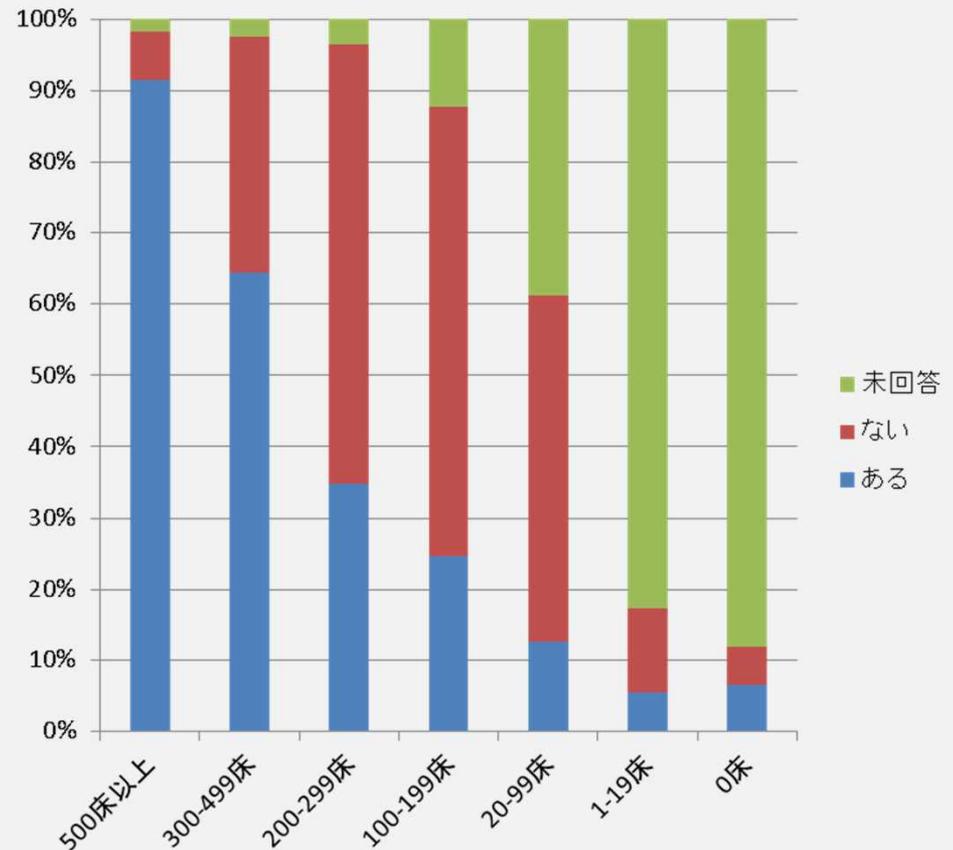
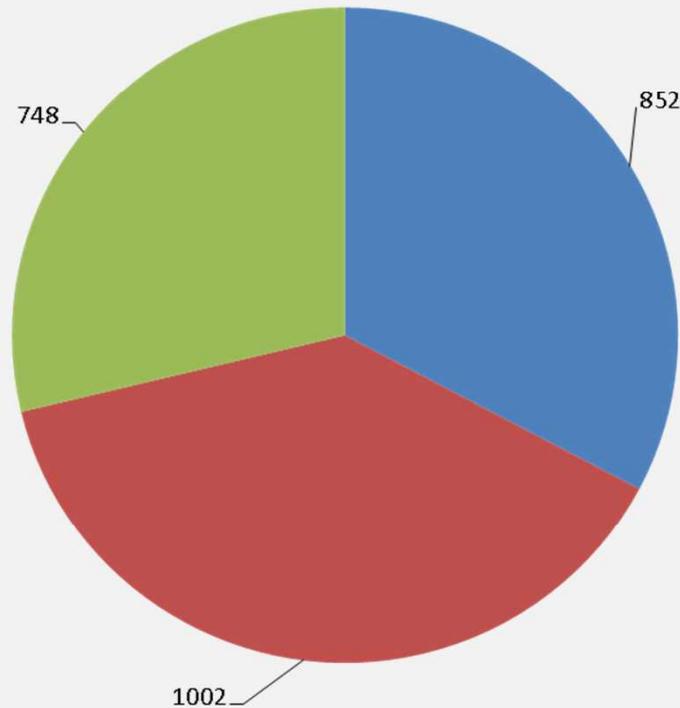
	500床以上	300-499床	200-299床	100-199床	20-99床	1-19床	0床
施設数	272	402	284	594	535	220	295

# 外来輸血を実施している病院・診療所で DPCに参加している割合



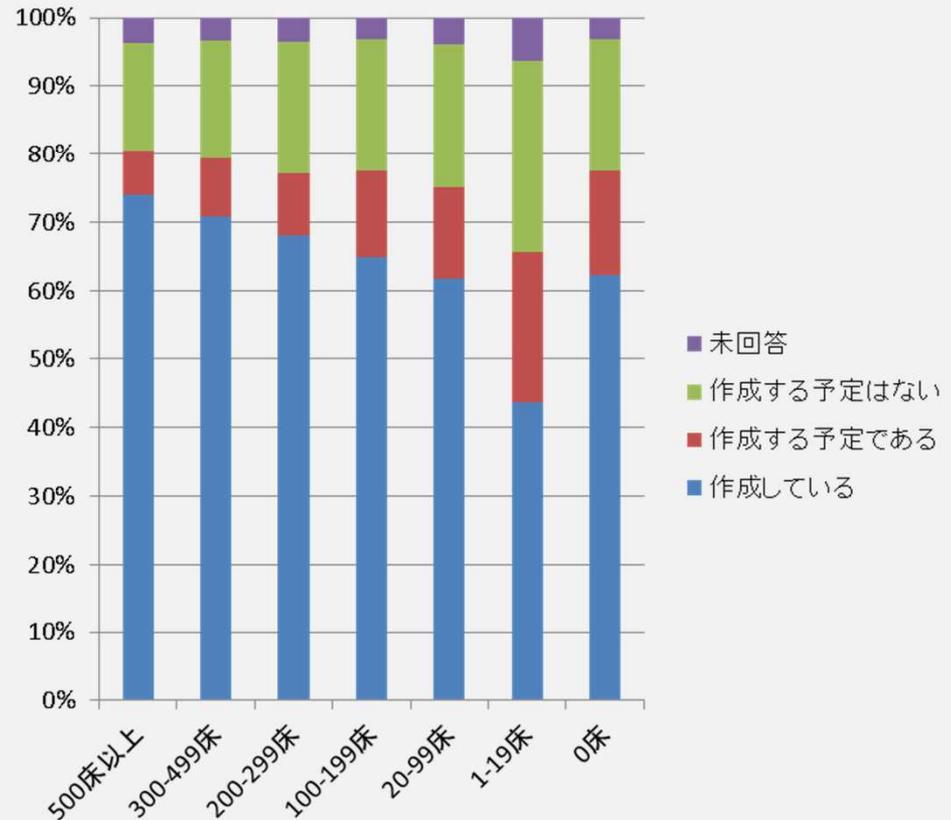
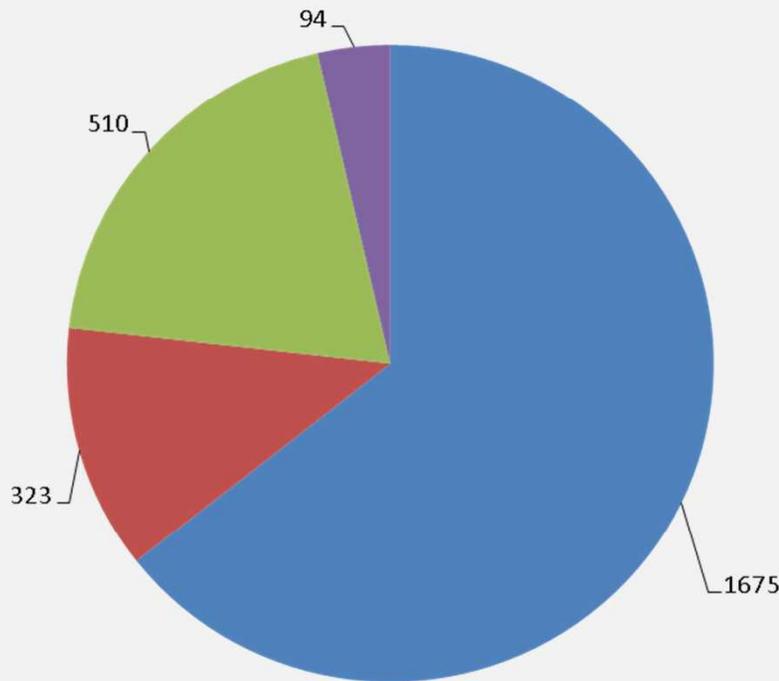
	500床以上	300-499床	200-299床	100-199床	20-99床	1-19床	0床
施設数	272	402	284	594	535	220	295

# 外来輸血実施施設における血小板製剤の使用



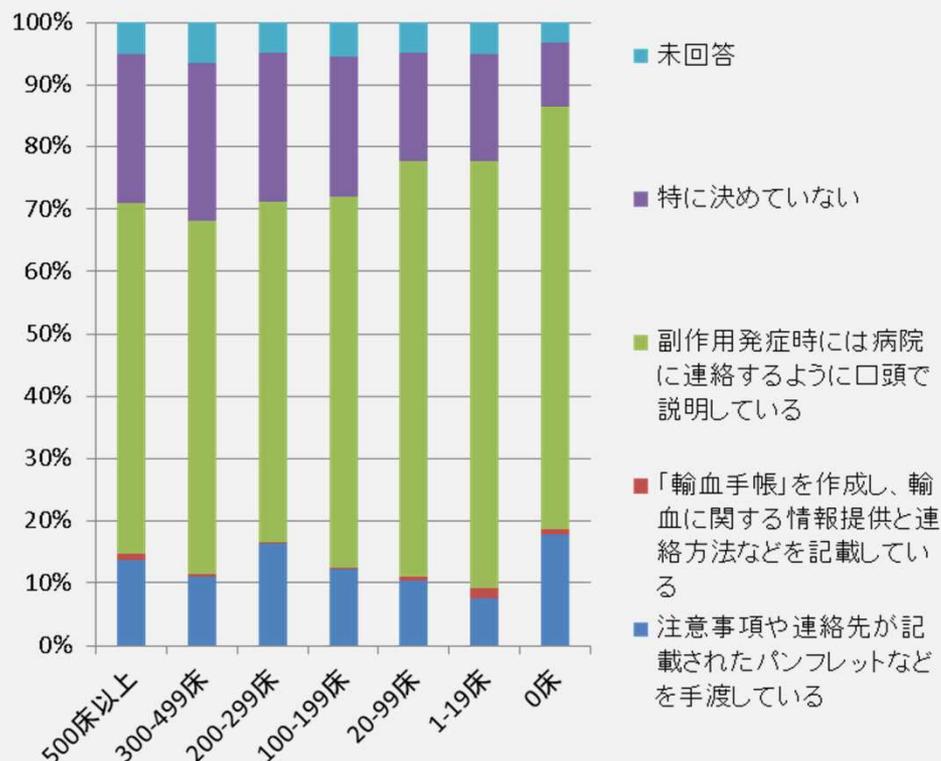
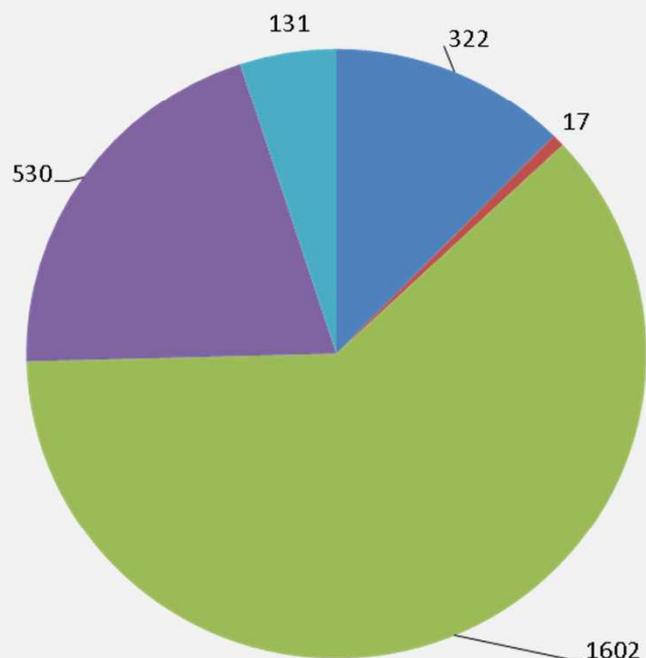
	500床以上	300-499床	200-299床	100-199床	20-99床	1-19床	0床
施設数	272	402	284	594	535	220	295

# 外来で輸血する際のマニュアルを作成しているか否か



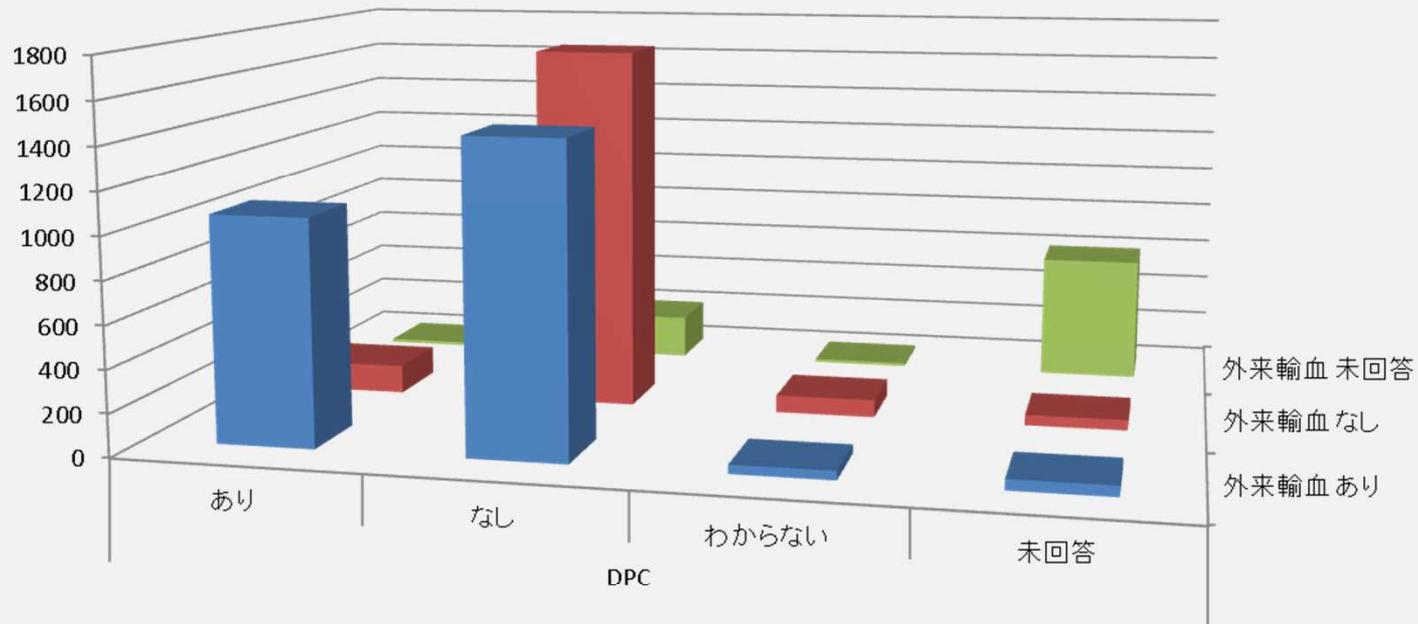
	500床以上	300-499床	200-299床	100-199床	20-99床	1-19床	0床
施設数	272	402	284	594	535	220	295

# 外来にて輸血し離院後に副作用が発現した場合の対応法について決めてあるか否か



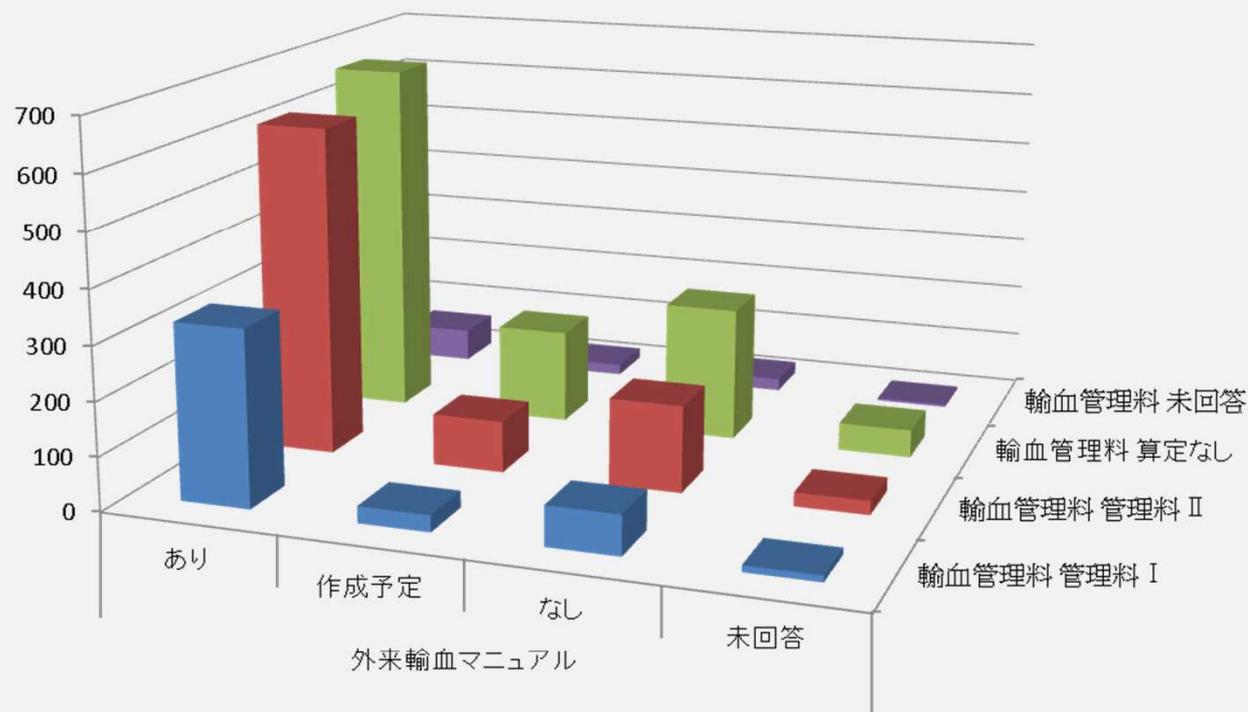
	500床以上	300-499床	200-299床	100-199床	20-99床	1-19床	0床
施設数	272	402	284	594	535	220	295

# DPCと外来輸血（全施設対象）



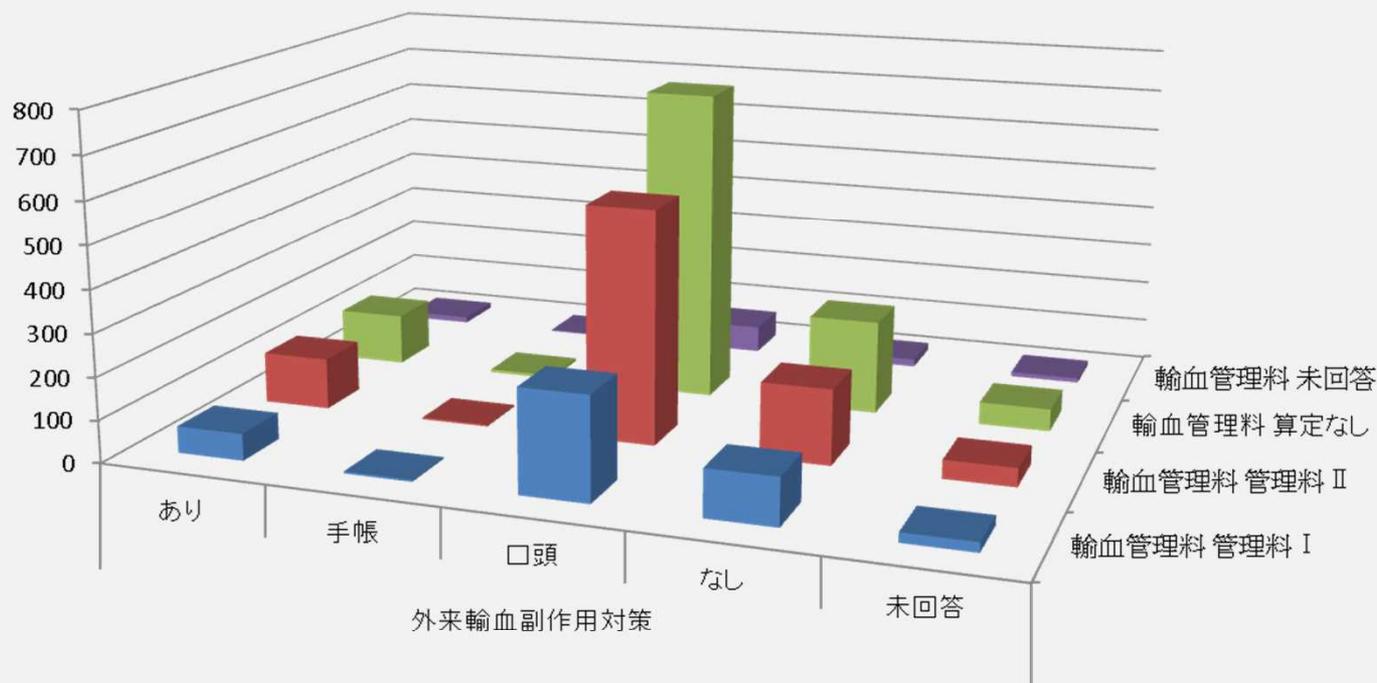
		外来輸血			計
		あり	なし	未回答	
DPC	あり	1060	135	15	1210
	なし	1450	1728	207	3385
	わからない	42	83	15	140
	未回答	50	50	599	699
計		2602	1996	836	5434

# 輸血管理料と外来輸血マニュアル整備



		外来輸血マニュアル				計
		あり	作成予定	なし	未回答	
輸血管理料	管理料 I	327	31	74	12	444
	管理料 II	617	96	162	26	901
	算定なし	669	176	251	52	1148
	未回答	62	20	23	4	109
計		1675	323	510	94	2602

# 輸血管理料と外来輸血副作用体制整備



		外来輸血副作用対策					計
		あり	手帳	口頭	なし	未回答	
輸血管理料	管理料 I	63	4	243	111	23	444
	管理料 II	122	4	553	178	44	901
	算定なし	123	7	742	223	53	1148
	未回答	14	2	64	18	11	109
計		322	17	1602	530	131	2602

# まとめ

- 外来輸血実施
  - 病床が大きいほど外来輸血実施割合が高かった。
  - PC輸血は、病床数200床以上の施設で実施されている傾向？（99床以下の施設の未回答率が高く判定不能）。
  - DPC算定病院では、DPC非算定病院より外来輸血実施率が高かった。
- 外来輸血マニュアル作成
  - 有床診療所で作成している割合が低かった。
  - 輸血管理料算定病院は非算定病院よりも作成割合が高かった
- 外来輸血実施・帰宅後の副作用発生時の対応について
  - 説明を文書で実施している施設の割合は低く、多くの施設は口頭で実施するのみであった。
  - 輸血管理料算定施設では非算定施設より、文書で実施している割合が高かった。